

あなたへ

見えない命が花開くころ  
暗い、暗い闇の中  
じっと心の声に耳を澄ますと  
かすかなささやきを感じる

小さなつぼみに先にのぞく  
艶やかな桃色の襟足  
ひと筋の汗が流れ落ち  
ジャスミンの香りが、夜霧のように部屋を湿らす

一点の光はかなたへ遠ざかり  
黒い瞳の中へと消えていく  
彷徨う心を追いかけて、雨の木立を行けば  
宝石のような露が  
芽の先に輝いていた

押さえていた何かが、解き放たれて  
あなたへと飛んでいくのを  
じっと、静かに、見つめていた